

北海道倶知安農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和 6 年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	・地域性を生かして、農業教育の質を向上させ、生徒の達成感を実感できる取り組みを充実させる。	・日本農業技術検定 3 級の合格率 100%を目指し、分野ごとに教科内指導を実践した。 ・研究班活動の充実では生活・畜産の 2 班が全道大会へ出場。農業鑑定競技全国優秀賞を獲得した。	・日本農業技術検定は、合格率の向上に向けて、継続的に指導していく。 ・発表力を含めた総合力を向上させ、全道大会入賞を目指していく。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	・地域性を生かし、農業の国際化に対応したグローバルな教育活動を展開する。	・国際色豊かなこのニセコエリアで、外国人留学生の受入など地元地域の特徴を生かした農業教育を実践した。 ・作物で JGAP 継続認証を実践した。	・留学生の受入については、可能な限り継続していく。 ・JGAP 認証の継続と、それに見合った農場施設設備の充実を図っていく。	5
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	・地域の特色を生かした生産技術の学習を展開し、地域を支える人材育成を目指す。	・和牛のブランド化や日本酒「忠」の原料生産等、地元地域を意識した学習活動を継続発展した。 ・ドローンやロボットトラクタなどスマート農業技術の研修会、現場視察など実践した。	・和牛、日本酒、有機栽培、スマート農業を中心とした学習活動を継続していく。	4
	4 「地域の農業関連産業や 6 次産業化に寄与する教育」を行います。	・農業の 6 次産業化の学習を展開し、地域産業を担う人材を育成する。	・地元酒造会社と連携・協働した日本酒づくり、酒粕の商品開発などの学習活動を実践した。 ・倶農グラスフェッド和牛の創出により、生産から流通販売まで実践した。	・今後も、地元企業や生産者、地元ホテルやレストランなどと連携・協働を継続していく。	5
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	・持続可能な農業生産への取り組みを充実させる。 ・SDGs を意識した農業生産の取り組みを充実させる。	・動植物の基本的な生理生態の基礎知識を身につけ、時代に即した生産工程管理を学習させ、充実した。 ・JGAP 基準に沿った農産物の生産を行い、SDGs を意識した展開を実践した。	・地球環境の変化を生徒個々が身近なことから捉え、危機感を持って学びを深められるよう指導していく。	5
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	・地域未利用資源の活用や地域の人材、自然の恵みを積極的に活用する。	・地域の未利用資源である酒粕や豆腐かす等の飼料利用による畜産物生産を開始した。 ・地元で廃棄される食品加工の副産物や山野草等の天然資源を活用した商品開発の研究が充実した。	・未利用資源の活用については、その有用性や価値について総合的に判断出来るよう、実証試験を行い活用していく。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0 の時代に応じた教育」を行います。	・農業の基礎基本を見直し、工程の見える化、自動化の基礎を学び、応用できる人材を育てる。 ・農業生産者と農業理解者が共に豊かな環境を構築できる、情報環境づくりを目指す。	・企業と連携し、ICT を活用したスマート農業に関する講習会や視察研修を実施した。 ・交流学习や生産物販売会等を通じて、コミュニケーション能力が向上した。	・スマート農業など、先進企業との連携を更に充実させ、継続的に実施していく。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	・地域防災に努め、危機管理に対する意識を高める。	・農場の環境整備を徹底するとともに、防災への意識高揚を図り、安全教育を推進した。 ・GAP 学習やリスク管理の学習を通して生徒への安全教育を推進した。	・学校施設設備の修繕や保管について、防災という観点から、継続して対処していく。	3